

FMC

果樹・茶・さとうきび用殺虫剤

サムコイル® **フロアブル10**

powered by
RYNAXYPYR®



**果樹害虫のローテーション防除に
欠かせない1剤。**



果樹のチョウ目害虫防除に。適用作物が増えてさらに使いやすく！

ローテーション防除の1剤として

ハマキムシ類、シンクイムシ類などのチョウ目害虫にすばやく効果を発揮。有効成分リナキシビル[®]だから、ローテーションの1剤として有効です。

計量しやすく、汚れの残りにくいフロアブル製剤

サムコル[®]フロアブル10は扱いやすいフロアブル製剤です。また、果実に汚れが残りにくいので収穫間近にも使いやすい1剤です。

約2週間の長い効果

効果が長く続くので、ローテーション防除の合間に殺虫効果が切れてしまう心配が少なく、防除間隔に余裕が持てます。

適用作物に対する高い安全性

これまでに適用作物に対する薬害は確認されていません。発芽～収穫間近までいつでもお使いいただけます。

適用害虫と使用方法(色文字が適用拡大部分)

2018年4月25日現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数
りんご	シンクイムシ類、ハマキムシ類 ケムシ類、キンモンホソガ ギンモンハモグリガ ヒメボクトウ	2500～5000倍	200～700ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	ヨモギエダシヤク、オオタバコガ	5000倍					
なし	ケムシ類 シンクイムシ類	2500～5000倍					
	ハマキムシ類 ヒメボクトウ	5000倍					
かき	ハマキムシ類、ケムシ類 ヒロヘリアオイラガ カキノヘタムシガ ハスモンヨトウ フタモンマダラメイガ						
	ハマキムシ類 ケムシ類、モンキシロノメイガ クビアカカミシバ						
	コスカシバ						
おうとう	ハマキムシ類、ケムシ類 オウトウショウショウハエ	2500～5000倍 2500倍					
	ノコメトガリキリガ、コスカシバ	5000倍					
うめ	ケムシ類	2500～5000倍					
	ハマキムシ類	2500倍					
すもも	シンクイムシ類		2500～5000倍	収穫3日前まで			
	ケムシ類						
あんず	ハマキムシ類	2500倍					
	もも	シンクイムシ類、ハマキムシ類 モモハモグリガ、コスカシバ	5000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内	
ネクタリン		収穫3日前まで					
さとうきび	イネヨトウ	100～300ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	4回以内(粒剤は1回以内、水和剤は3回以内)		
茶	チャノコカクモンハマキ チャハマキ、ヨモギエダシヤク	2000倍	200～400ℓ/10a	摘採3日前まで	1回	1回	
	チャノホソガ	2000～4000倍					
	ハスモンヨトウ	4000倍					

△効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調整後はできるだけ速やかに散布してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- 畜に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。

- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

グループ 28 殺虫剤

殺虫剤抵抗性管理 (IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、サムコル[®]フロアブル10または他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。年間を通じて適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
 (1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト (<http://www.irac-online.org>)
 (2) <http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC>

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。



アグロ カネショウ株式会社

東京都港区赤坂4-2-19